

“わたしのまち”

堀切菖蒲園は江戸系古花の花しょうぶを觀賞することができる（平成27年度葛飾菖蒲まつりの様子）

葛飾区

葛飾の菖蒲まつり

江戸時代から続く花しょうぶの名所

葛飾区では毎年6月に「葛飾菖蒲まつり」が開催されます。堀切菖蒲園、水元公園の2会場で行われるこのまつりでは、多くの種類の花しょうぶが咲き、訪れる人を楽しませてくれます。今回は葛飾区の代表的なまつりにスポットを当て、各会場の見どころや花しょうぶが親しまれてきた経緯などを取り上げます。



葛飾区と花しょうぶ

花しょうぶとの関わりは江戸時代から

これからの季節、区内ではある花が見頃を迎え多くの人が訪れます。その花は区の花として定められている「花しょうぶ」です。

花しょうぶは日本各地で一般的に見られる野花です。堀切の花しょうぶは、文化年間（1804～1817）に当時の農民、伊左衛門父子によって江戸時代の花文化の隆盛とともに、堀切村（当時）で栽培が本格化しました。

幕末期には小高園、武蔵園といった観覧を目的とした菖蒲園が開園し、その景観は初代歌川広重や歌川豊国ら多くの浮世絵にも描かれています。

明治維新以後には日本の花として欧米への輸出が始まり、国内外の博覧会へも出展されましたが、第2次世界大戦によって菖蒲園は閉園していきまし。その中で唯一堀切菖蒲園だけが復興され、現在も江戸の伝統を継承し、毎年きれいな花を楽しませてくれます。

一方、現在の水元公園にあたる地域は、江戸時代中期以降より小合溜井（こあいためい）という用水用のため池があったところ。昭和30年代に始まる水元公園の建設で、はなしょうぶ園が開園しました。

葛飾区は、江戸も平成の時代もかわらぬ花しょうぶの名所なのです。

堀切菖蒲園会場

平成28年度開会式：
平成28年6月5日(日)午後2時～



会場では、ご当地キャラクター「ほりきりん」も顔を見せ、まつりを盛り上げる



夜のライトアップでは、地元小学生が作った行燈の光に花しょうぶが浮かび上がる様子が幻想的だ



菖蒲まつりパレードでは数十連の阿波踊りの姿も見られ圧巻だ

葛飾菖蒲まつりのみどころ

平成27年度の葛飾菖蒲まつりは6月5日(金)25日(木)に開催されました。各会場の昨年の様子を振り返ります。

堀切菖蒲園会場

堀切菖蒲園では、27年度に約200種、6000株の花しょうぶを楽しむことができました。品種が弱く管理が難しいとされる「江戸系古花」を含めた、多くの品種が展示された点が他園にはない特徴です。
きれいな花しょうぶを咲かせるために、これまで水を張った田圃栽培から、散水を中心に管理する畑栽培へと新しい育成方法を導入したり、畑の土の種

類を荒木田土から赤土へ変更するといった工夫を施しました。

また、除草や肥料・薬剤・水やりを日々適正に管理したり、変更箇所のでいたを収集、分析するといった努力を重ねることで、来園者に喜ばれるような花しょうぶを咲かせることができました。

◆地道に行う品種の育成・管理

堀切菖蒲園内の限られた面積の中で、きれいに咲き揃うよう200種の花しょうぶを植え付けるには、区分けごとで同じ品種が重ならないようにしたり、3年毎に行う株分けで他の品種と混在

しないよう細心の注意を払って育成管理を行う必要があります。

花しょうぶは同じような花色や大きさが多く、混ざってしまうとわからなくなってしまうたり、異種交配して品種が変わってしまう可能性もあるため、その場合にはやむなく廃棄することもあります。

このように、その品種を大切に保存・育成することで、より良い花を多くの人に楽しんでもらえるよう日々作業を続けていきます。

◆菖蒲まつりに合わせて

まつり開催中は、堀切菖蒲園駅前通りで地元幼稚園や交通少年団の鼓笛隊やマーチングバンド、民謡踊りなど多数の団体による菖蒲まつりパレードがありました。中でも庄巻なのは数十連が参加する阿波踊りで、イベントの最後には全連が参加しての阿波踊りも行われました。
また、まつり開催中には堀切活性化のイメージキャラクター「ほりきりん」もさまざまな場所で顔を出し、来場する多くの人を喜ばせました。



堀切水辺公園は花しょうぶとスカイツリーを同時に撮れる撮影スポットとして人気が高い

期間中は夜間2日間のライトアップ(来場者約3090人)を含め、約8万5000人の来場者があり、また5月25日からの1か月間で見ると、約9万6200人(平成26年度と比較し約3万人増)の来場者が訪れるなど大変盛り上がりました。

◆おすすめスポット

堀切水辺公園は花しょうぶとスカイツリーのコラボ写真が撮れる絶好の撮影スポットです。イベント中盤の土日2日間で開催されるライトアップイベントでは、地元小学生が作った行燈の光に花しょうぶが浮かび上がる様子が幻想的です。また、昨年度初めてプロ



事前の育成・管理があつて、花しょうぶが咲き揃う。自然豊かな水元公園で花しょうぶとあじさいの共演も楽しみな点だ（水元公園会場）



水元公園会場

開会式：
平成28年6月5日(日)午前10時～

ジェクションマッピングを行い、さらにイベントが盛り上がりました。

水元公園会場

水元公園は、都内で唯一の水郷の景観を持つ都立公園として親しまれ、四季折々の自然を楽しむことができます。

そして、毎年6月の季節には数々の花しょうぶが見られ、多くの人が訪れます。平成27年度は、約100種、14000株の花しょうぶを楽しむことができました。

会場では、同じ時期に見頃を迎えるあじさいも一緒に楽しめるのが特徴です。花しょうぶの他にも色とりどりに咲く花を楽しんでもらいたいと、13年前よりボランティアで水元公園葛飾菖蒲まつり実行委員会があじさいを植え始めたのがきっかけでした。現在では、約65種1700株にもなり、鮮やかな花の共演を楽しむことが可能です。

◆開花時期を揃えるための苦労

品種によつて開花時期が異なることに加え、最近では気象の変化により開花期は年々早くなつており、菖蒲まつりの期間に咲き揃えることが課題となつています。

そこで、まつりの期間に合わせて一斉開花を促すため、菖蒲田の水張りを遅らせ、花しょうぶの生育を抑制して開花調整を行っています。また、さまざまな色合いの江戸系品種を菖蒲田に配分したり、株分け周期を短縮して若々しい花しょうぶを鑑賞できるよう

工夫しています。

こうした努力の甲斐があつて、昨年の開催期間中は水元公園に約4万500人の入場者が訪れました。

◆おすすめイベント

会場では、まつりに合わせて地域愛

葛飾菖蒲まつり2016

平成28年度は6月1日(水)～20日(月)の期間で葛飾菖蒲まつりが行われます。

両会場では、多種多数の花しょうぶを楽しみに本格的なカメラを持参して美しい光景を撮ろうと写真愛好家も多く訪れます。また、思い思いに花しょうぶを楽しんだり、まつり開催中の毎週末に行われるさまざまなイベントを楽しむに人も多くいます。

そして、それを陰で支える花しょうぶの育成・管理者やそれぞれの地域のかつしか菖蒲まつり実行委員会の協力もこのまつりが盛り上がるには欠かせないものとなっています。

菖蒲まつりの期間中には、「かつしか菖蒲めぐりバス」も運行する予定です。これは、まつり開催期間中の土日に

好会参加コーナーや歌謡ステージ、地域住民参加のステージイベントが毎年開催されます。中でも30年以上続くカラオケ大会が人気です。

特にシニア部門のカラオケ大会では、この日のために練習を重ねているシニアの方も多くいるということです。

運行されるもので、堀切菖蒲園↓しばられ地蔵(水元公園)↓金町駅↓柴又帝釈天↓堀切菖蒲園と循環する経路です。両会場の花しょうぶを觀賞するのに最適なだけでなく、会場周辺の観光地を訪れるのも楽しみの一つとなるでしょう。

改修予定の堀切菖蒲園

堀切菖蒲園改修及び(仮称)堀切二丁目第二公園新設事業

葛飾菖蒲まつりの堀切会場となる堀切菖蒲園では、文化財・史跡としての趣や魅力を引き出す整備を行うために、平成28～29年度に渡って園の改修工事を予定しています。

以前、堀切園の一部であったとされていた隣接地や児童遊園地を公園拡張用地として取得し、四季を通じて花を楽しめる空間や、旧静観亭のあった場所にお茶屋風の休憩所を配置するなど江戸情緒が感じられるような整備が行われます。